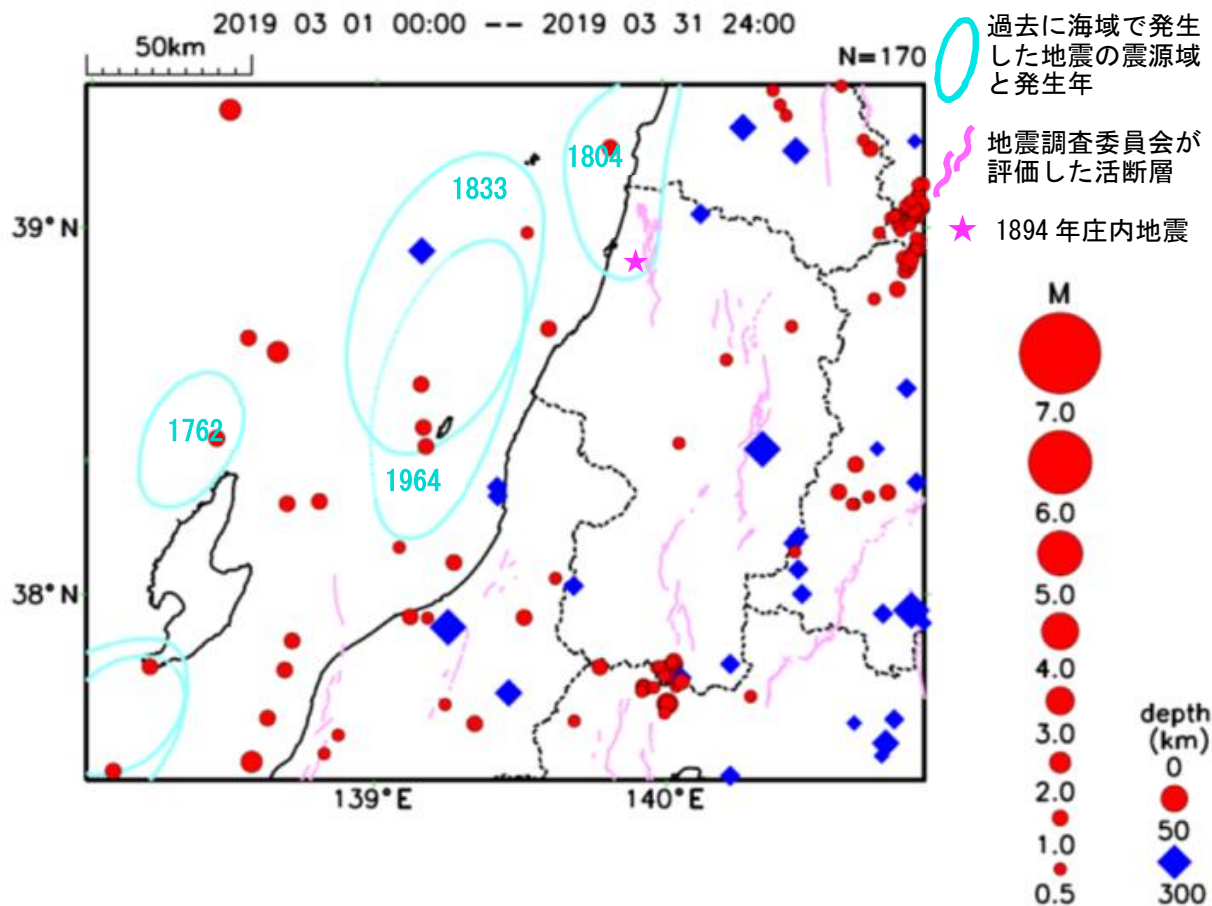


山形県月間地震概況 (2019年3月)

山形地方気象台

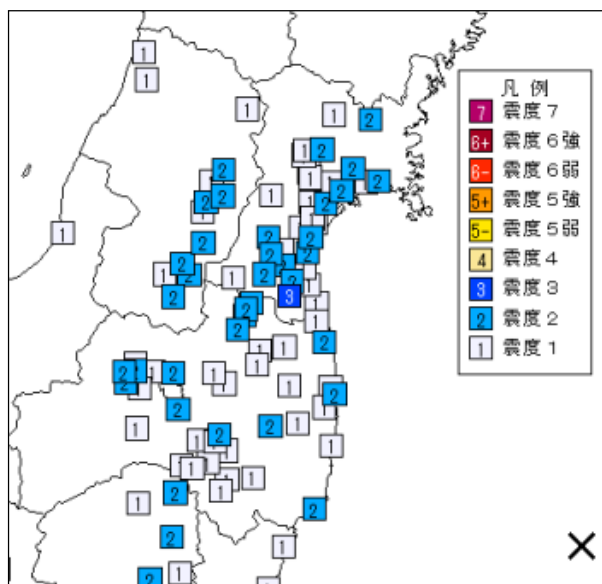


【概況】

この期間、山形県とその周辺(上図の範囲内)で観測した地震は170回であった。また期間中に県内で震度1以上を観測した地震は4回(前期間2回)であった。

7日04時26分に宮城県沖の深さ70kmでM4.6の地震が発生し、岩手県、宮城県で震度4を観測したほか、東北地方で震度3~1を観測した。県内では、尾花沢市で震度2を観測したほか、県内の広い範囲で震度1を観測した。この地震は太平洋プレート内部で発生した。

11日02時10分に福島県沖でM6.0の地震(右図)が発生し、宮城県で震度3を観測したほか、東北地方と関東地方で震度2~1を観測した。県内では、村山と置賜で震度2を観測したほか、庄内、最上で震度1を観測した。この地震は太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

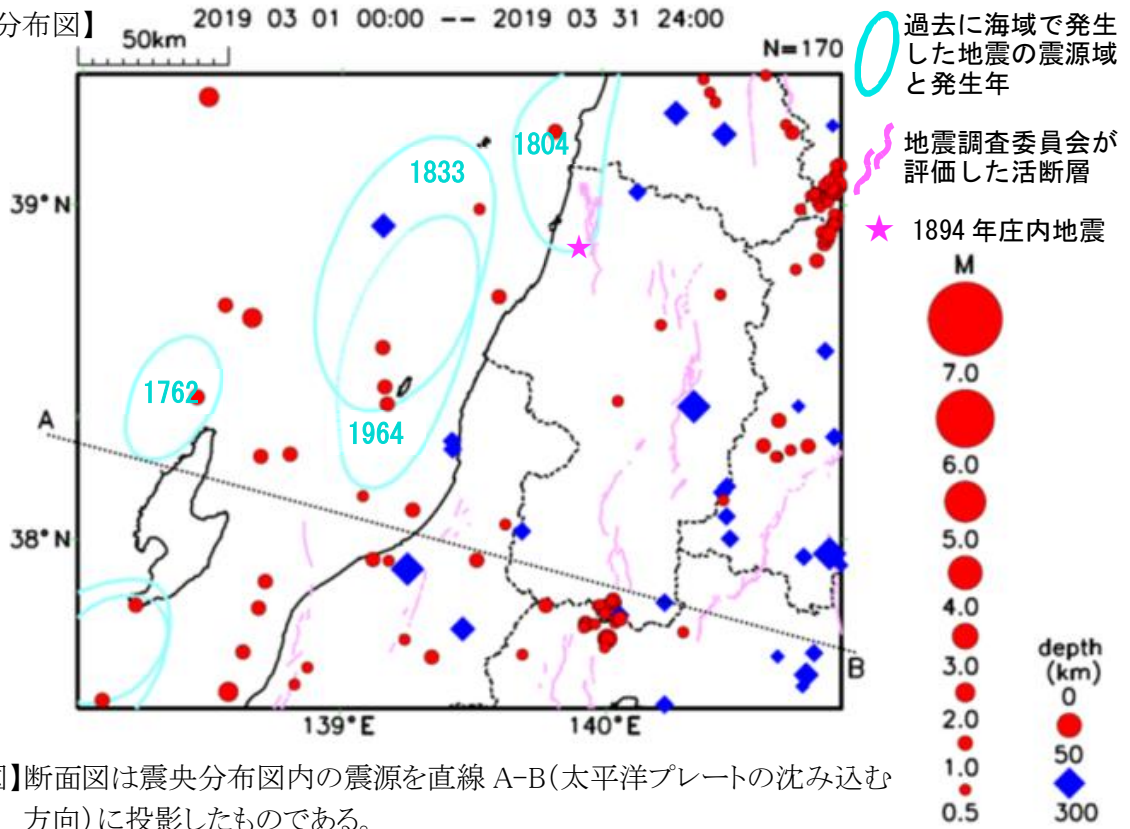


11日02時10分に福島県沖で発生した地震(M6.0)の震央(X)と市町村別震度

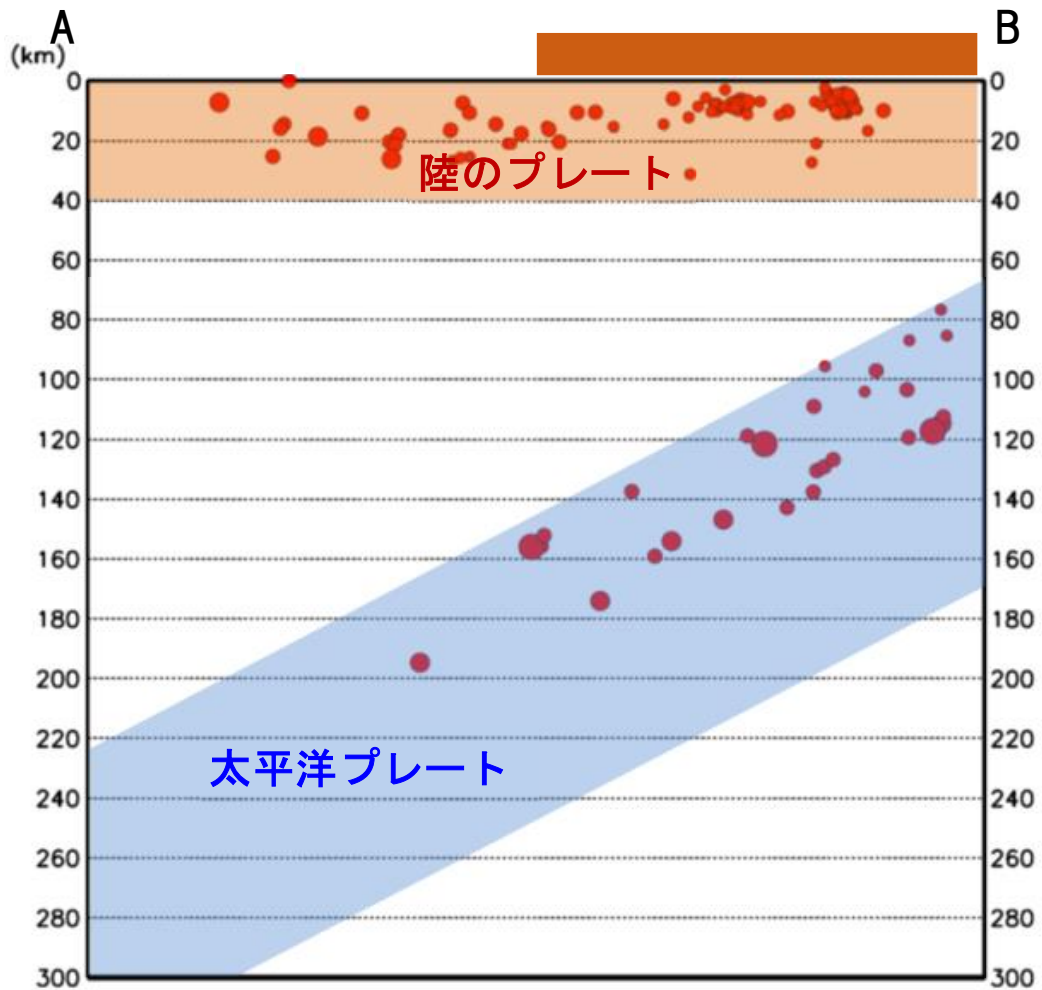
※本資料では、地震の規模を示すマグニチュードを「M」として表記している。

※山形県の各地の震度の詳細は、別紙「山形県で震度1以上を観測した地震の表」を参照。なお震源要素等は、再調査により変更することがある。


【震央分布図】



【断面図】断面図は震央分布図内の震源を直線 A-B(太平洋プレートの沈み込む方向)に投影したものである。



※太平洋プレート及び陸のプレートの位置は、地震発生状況を考慮して描いた大まかなものである。

※  は陸地の大まかな位置を示している。

※陸地から離れた海域ほど、震源の深さ精度は良くない。なお、沖合いの地殻内で発生する地震の震源は、実際はより浅いものが多いと考えられる。

山形県で震度1以上を観測した地震の表

※今後の精査により、震源や震度のデータが追加されることがある。

期間 2019年3月1日～2019年3月31日

発震時	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
各地の震度					
2019年03月02日12時22分	根室半島南東沖	42° 00.4' N	146° 51.7' E	51km	M6.2
山形県	震度2 : 中山町長崎*				
	震度1 : 村山市中央* 天童市老野森* 東根市中央* 河北町谷地 河北町役場*				
2019年03月07日04時26分	宮城県沖	38° 43.2' N	141° 38.0' E	70km	M4.6
山形県	震度2 : 尾花沢市若葉町*				
	震度1 : 庄内町狩川* 新庄市東谷地田町 最上町向町* 舟形町舟形* 真室川町新町* 大蔵村肘折* 大蔵村清水* 戸沢村古口* 山形市緑町 山形市薬師町* 寒河江市西根* 寒河江市中央* 上市市河崎* 村山市中央* 天童市老野森* 東根市中央* 山辺町緑ヶ丘* 中山町長崎* 河北町谷地 河北町役場* 山形朝日町宮宿* 大石田町緑町* 米沢市駅前 米沢市林泉寺*				
2019年03月11日02時10分	福島県沖	36° 45.7' N	142° 24.3' E	18km	M6.0
山形県	震度2 : 上市市河崎* 村山市中央* 天童市老野森* 中山町長崎* 米沢市林泉寺* 南陽市三間通* 高島町高島*				
	震度1 : 酒田市飛鳥* 遊佐町遊佐 最上町向町* 山辺町緑ヶ丘* 河北町谷地 河北町役場* 米沢市駅前 米沢市アルカディア 米沢市金池* 山形川西町上小松*				
2019年03月11日02時24分	福島県沖	36° 43.5' N	142° 29.2' E	28km	M4.9
山形県	震度1 : 米沢市林泉寺*				

(注) 地震の震源要素等は、再調査により変更することがある。

各地の震度は山形県のみを示し、*は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点である。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。

地震についてQ&A

今年に入ってから、熊本県熊本地方で1月3日に震度6弱、1月26日にも震度5弱の地震が発生しました。また、北海道胆振地方中東部でも2月21日に震度6弱の地震が発生しました。いずれの地震も陸域の比較的浅い部分で発生しており、このような地震を「陸域の浅い地震」と呼んでいます。「陸域の浅い地震」は、地震の規模（マグニチュード）が小さくても揺れが大きくなる特徴があり、大きな被害をもたらすことがあります。

今回は、主に「陸域の浅い地震」に関して、一問一答形式で簡単にまとめてみました。

Q1. 陸域での地震はどのようにして発生するのですか？

長い年月をかけて地下の岩盤に力が加わり、それが限界に達したとき、岩盤が「断層」を境に急速に動きます。こうして地震が発生します。

Q2. 活断層とはどのようなものですか？

断層のうち、過去に繰り返し地震を起こし、将来も地震を起こすと考えられている断層を「活断層」と言います。

Q3. 山形県にも活断層はありますか？

過去に大きな地震を発生させた活断層が複数確認されています。また、**現状では確認されていない場所についても**、その地下には将来地震を発生させる活断層が存在している可能性があります。つまり、日本のどこであっても地震が発生する可能性はあるのです。

Q4. 陸域では大地震がどの程度の間隔で発生しますか？

それぞれの断層は人間の一生に比べるとはるかに長い時間間隔で活動しますが、日本国内全体で見ると、過去200年の平均では10年に1度程度の頻度で大地震が発生しています。また、それぞれの断層は同規模の地震を同間隔で発生すると考えられますので、**過去の地震の歴史も将来の参考**になります。

Q5. 揺れが大きくなりやすいのはどのような場所ですか？

震源が近い場所は勿論ですが、特に**地盤が軟弱な場所では揺れが大きくなる**ことがあります。

Q6. 地震予知は可能ですか？

地震予知とは、「いつ」「どこで」「どの規模」の地震が発生するのかを、発生前に科学的根拠に基づいて予測することですが、現在の科学的知見では困難です。このため、突然の地震に対する**日頃の心構えと具体的な準備**（家具の耐震固定・避難場所確認・持ち出し品準備 等）が大切です。

Q7. 「緊急地震速報」とはどのようなものですか？

地震発生後、**大きな揺れの到達を数秒～数十秒前にお知らせする情報**です（地震予知ではありません）。これにより被害の防止や軽減が期待できますが、残念ながら、**震源に近い場所では情報の提供が、大きな揺れに間に合わないことがあります。**

気象庁ホームページでは、気象・地震津波・火山等の各種情報を公表しております。

<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>